



旅バリ通信～春号～

# いしかわ 旅バリ通信

発行先：特定非営利活動法人  
石川バリアフリーツアーセンター  
TEL&Fax：076-255-3526  
E-mail：[tabi@ibarifuri.com](mailto:tabi@ibarifuri.com)  
発行日：2020年4月16日



～行きたいところに、

行けたらいいな!～



そんなお問い合わせにお応えします！

障がい者・高齢者の視点で、旅のバリアフリーを目指すのが「石川バリアフリーツアーセンター」のモットーです。



「令和」となり迎えた冬は雪国石川では珍しい雪のない冬でした。しかし、春になった今、全国にとどまらず世界中で猛威をふるっている新型コロナウイルス。多くのイベントや催事の中止や縮小を余儀なくされています。センターにお問合せ頂いていたお客様や、旅を楽しみに準備を進めていらっしゃった方々から旅を断念せざる得ないという残念なご連絡も多くあります。一日も早く、また多くの方々が“行きたいところへ、行けたらいいな！”と元気に活動できます様、スタッフ一同祈念しております。



## ★主な活動報告

### \*「観光バリアフリー講座」が開催されました。

2月10日(月)に金沢市観光政策課主催の「観光防災バリアフリー講座」が開催されました。沖縄県より特定非営利活動法人バリアフリーネットワーク会議理事長の親川修氏をお迎えし、「逃げるバリアフリー」についてご講演頂きました。

受け入れ地でのバリアフリーが注目される中、障害者・高齢者・外国の方などが来県中にもし災害が発生した場合どの様に避難させるか。「逃げるバリアフリー」にはどのような準備や心構えが必要になるのかに着目し、ご講演頂きました。



「安心と安全はすべての人に平等にあるべきである。」

「住んでよし！訪れてよし！受入てよし！」



お忙しい中、本当に多くの方にご参加頂き、「とても参考になった」「観光防災について改めて認識した。出来る事から準備し障害者の方の受入も積極的に行っていきたい」などのアンケート結果を頂きました！今回の講演を機に、観光業界のみならず地域市民の方々にも「逃げるバリアフリー」が浸透してくれると嬉しいです。



♡…嬉しいお話し①…♡

講座終了後、早々に宿泊施設から「バリアフリー勉強会」のご依頼いや、宿泊施設改装に向けた「試泊調査」のご依頼など、前向きなお話しやご相談をたくさん頂きました！！



## \* 日本大学の学生さんがセンターにいらっしやいました！

2月12日(水)、日本大学国際関係学部国際教養学科の地域観光・旅行ビジネスを研究するチーム6名の方のセンター訪問がありました。

地元の観光に携わる仕事に就きたいと考えている学生や、旅行関係の仕事に就きたいと考えている学生など、大きな夢をもちこれからを担っていく若人とバリアフリー観光について4時間以上も意見交換を含めた座談会をしました。バリアフリー観光に大きな関心を持ち、センターにお越しいただきました事を大変嬉しく思います。

これからの活躍に期待し、石川県から応援しています！！



## \* 木場潟 & 粟津温泉周辺バリアフリー MAP 完成！

「こまつ空港・駅周辺バリアフリー MAP」に続き、第2段、バリアフリーマップ完成！北陸最古の粟津温泉周辺にある、紅葉の絶景「那谷寺」、世界各国の名車がそろった「日本自動車博物館」など、飲食・観光・宿泊・公共施設と項目を分けて作成しました。

トイレ情報や補助犬の受入れ、また英語とポルトガル語でも掲載されており、障がいのある方、ご高齢者、お子様連れの方、外国の方など皆様の外出時にご利用いただけるような素敵な MAP が仕上がりました。この MAP をもって小松市観光はいかがですか♡



# ビッグニュース！

## ☆ゆるスポーツの推進に向け小松市で「ゆるスポーツ協議会」(仮称)発足が決定！

ゆるスポーツはスポーツ弱者、年齢や性別、障がいの有無に関わらず、誰もがゆるっと楽しむことができるのが魅力です。

前回の旅バリ通信(2019年冬号)で「SDGs17のゴール」をご紹介させて頂きましたが、その他、市のキャラクターを取り入れた「カブッキング」や「うどん打つドン」、「うどーりんぐ」など既に考案された小松ゆるスポーツはイベントや福祉施設などでの体験も増え、市民の間で徐々に親しみがもたれています。協議会には石川バリアフリーツアーセンターも参加、優しい町づくりの一助になる様ゆるスポーツを推進致します。小松駅周辺に協議会事務所設立も検討中です！



### ♡…嬉しいお話し②…♡

小松市の協議会発足に伴い、「ゆるスポーツについて」ツエーゲン金沢の方のセンター訪問がありました！ゆるスポーツとはどういったものなのか。サッカーとの融合で何か出来ることはあるだろうか？など、これからの社会活動の一環として積極的に検討してみたいとの事でした。プロのサッカー選手と関わることができたら楽しさも倍増ですね！！

